

第225話 達磨寺田植踊り その7 中山町歴史散策

前は、花笠舞の歌詞についてみてきました。この花笠舞は、田植踊りの早乙女が2人または4人揃って花笠をかぶるほか、両手に同じ花笠をもって踊るもので、もとは祝いの席などで、三味線の囃子もつきましたが、今は口三味線になっています。どうして外踊りの田植踊りに花笠舞が付属したのかといえば、もともと田植踊りも花笠舞も神事芸能の「田遊び」から発展した芸能であることから、達磨寺の場合は、このふたつの踊りがもとは別々に踊られていたものを、ある機会にある先達が附（つけたり）として補足し、踊りを充実させたものだろうと推測されます。

また、達磨寺田植踊りには附として男舞の榊取り舞がつけられています。構成は田植踊りのテデ衆と中太鼓がそのままで、それに囃子方と、後列にソトメが控えて掛け声をかけます。これは収穫した米を榊で計る喜びの動作を表現するものです。

特徴のまとめ

達磨寺田植踊りの曲目は「お正月」ではじまり、「ほまち」で終わる全6曲です。これは田植踊りの正統派ともいえるべき曲目で、「お正月」は「植代かき」で、田植作業のはじめであるから、古代の暦法のない時代には稲作の始まりは新年の始まりでありました。そうした理由から田植踊りの始まりは「お正月」となるのです。

また、この踊りの最後「ほまち田」は「上りほか」に相当する曲目で、田植は旦那のほまち田（へそくり田）を植えて終了します。そして田の神（サの神）も天に帰ることになります。衣装は風流の常として華美になっていきますが、ソトメの笠は特に大きく縁に下がる赤垂幕の長いのが特徴です。

附の花笠舞は田植踊りのソトメがそのまま踊り手になり、違う点は豪華な花笠をかぶり、同様の花笠を両手に持って一列になって踊ります。唄も手ぶりも田植踊りとは異なるもので、囃子は口三味線です。

もうひとつの附の「榊取り舞」は田植踊りのテデ衆と中太鼓に囃子方が加わり、ソトメも後列で掛け声役になっています。踊りの内容は農作業の一連で、収穫された米を斗榊で量る最後の作業で、豊作を喜ぶ農民の姿を演じています。

この一見様式の異なる二つの附の踊りが、本踊りの田植踊りに加わっているのが最大の特徴で、この附がついた時代も経緯もはっきりしませんが、この附はもともと稲作の一連のものであり、それがこの田植踊りを一層充実させる意味をもつのです。現在は、毎年4月に行われている「お達磨の桜まつり」で踊りが披露されています。

※中山町史 中巻

第10章第4節「民俗芸能と娯楽」から

私たち地域おこし協力隊です！ No.91

3月8日に開催した『令和7年度地域おこし協力隊活動報告会』には、おかげさまで50名を超える参加がありました。ありがとうございました。椅子が不足する事態となり嬉しい悲鳴でした。次年度活動計画で中山ジュニア野球スポーツ少年団の選手たちとの新たな取り組みを発表させていただきましたところ、会場が盛り上がり一体となり紹介した協力メンバーへ応援の声援もいただき中山町の明るい未来を感じました！

『スポーツとフルーツ 伸びゆく町 なかやま』を掲げて中山町の農作物を商品化するためには、私の力だけでは超えられない苦難があり少し不安でしたが、皆さんの熱いパワー、応援をいただき「諦めず頑張ろう」とあらためて思いました。

最後までどうぞよろしくお願い致します。

前年度の活動報告会でのアンケートに「会場の入り口に阿部さんのいつもののぼり旗を出してください」という意見がありましたので今年度は実施しました。おかげさまで好評でした。またボランティアで会場の飾り付けをしてくださったお友達にも感謝です。皆様に支えられています。最後までどうぞよろしくお願い致します。



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦



●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271（総合政策課）